



# 「マルドリ方式」によるレモンの高収益生産

本方式は、マルチ(防草シート)と点滴かん水を組み合わせて、レモンの収量を増加させ、生産を安定させる技術です。

**地域農業確立総合研究「新品種の導入と正品果率の向上による高収益型カンキツ生産体系の確立」(平成20年度～22年度)にて実施**

## ・レモンの収量

マルチ処理(写真1)と点滴かん水により、収量は28%増加します(図1)。特に、11月の収量が多くなります。

## ・年内収穫比率

価格が比較的高く、寒波の被害を受けにくい年内に収穫できる比率が27%から39%に高まります(図1)。



写真1 マルチの設置状況

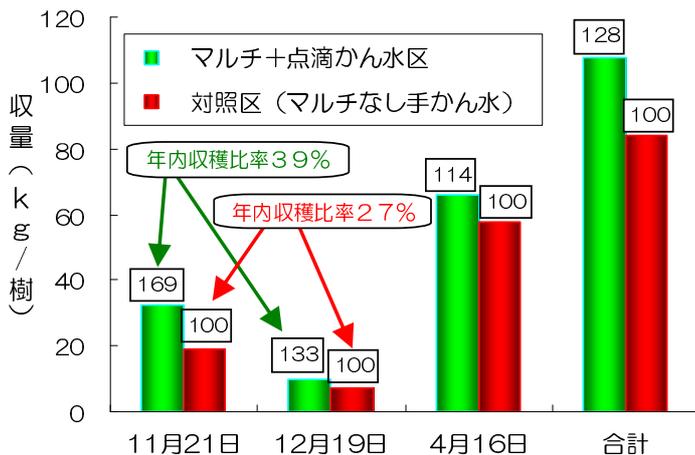


図1 マルチ処理とかん水管理の違いがレモンの収量に及ぼす影響(2008～2009年)  
注) 口内の数字は、対照区を100とした時の比率

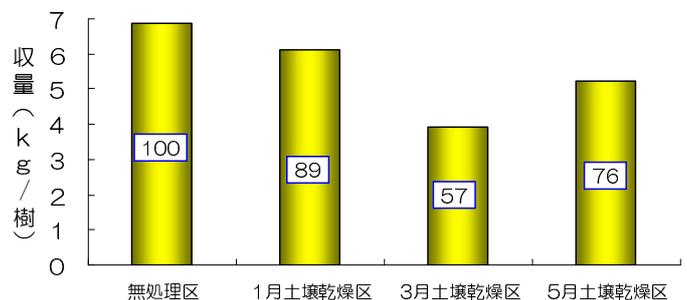


図2 冬～春季の土壤乾燥処理時期の違いがレモンの収量に及ぼす影響(ポット植え樹で試験)  
注) 口内の数字は、無処理区を100とした時の比率

## ・冬～春季の土壤乾燥の影響

1～5月に土壤の強い乾燥処理を行うと、収穫量は11～43%減少します(図2)。特に、3月乾燥の影響が大きく、冬～春季のかん水が重要です。

## ・かん水用の水源確保

高低差を利用してかん水を行うには、水を高い位置に運ぶ必要があります。太陽光発電(写真2)で送水ポンプを自動で稼働すると、省エネルギーと省力化が可能となります。



写真2 発電用ソーラーパネル